

(昨年12月に入団したBrパートの樋山さんから、「入団7か月」の感想と  
思いについて原稿が寄せられました。樋山さんは6月末の宇都宮市民芸術祭の  
ステージで歌われました。—HP担当)

私がドン合唱団に入団してから、早くも7か月が経ちます。

入団のきっかけは、妻の元上司であるT1パートの大林さんの勧めでしたが、  
当初は、自宅のさくら市から練習会場の宇都宮南生涯学習センターまでの遠距  
離を考え、継続していけるか否か入団を躊躇しました。「取りあえずは練習風景  
を…」と思い、昨年10月末恥ずかしながら妻同伴で見学させていただきました。

約1時間の見学後に感想を聞かれ、話した内容をよく覚えていませんが、入  
団後に感じたことは、常任指揮者である藍原寛治先生が、声量に余りとられず  
ぎず、客席に伝わる発声やハーモニーを重視した熟年男性に合う指導を、丁寧且  
つ反復的にされていることです。

また、ドン合唱団は団員の総意により活動しており、全団員が積極的に役割  
を担い、音楽と正面から向き合う姿勢も素晴らしく、さすがに「創設以来60年  
を超える歴史ある組織」と感じると同時に、私自身もその一団員にあることの認  
識を新たにしました。

さらに、嬉しく思うことはドン合唱団には和があり、団員同志の仲が良く親切  
で優しいことです。私は若輩者ですが、諸先輩は他の団体でも活動している方が  
大勢いると聞き、そのバイタリティにも驚きとともに敬服しているところです。

私は、高校生以来約半世紀の間、音楽(コーラス)活動から離れていましたが、  
3年前に近所の音楽関係者の勧めで、さくら市教育委員会が文化振興事業の一環  
として行うオペラ講座を受講しました。講座の内容は、プロの指導者のもとでさ  
くら市ゆかりの詩人・野口雨情をテーマとしたオペラを半年間(20回)学び、  
その成果として、オペラ『雨情とひろとお月さま』に市民合唱団として参加する  
ことです。その後も2年同講座を受講し、今年も予定しています。

これが音楽活動を再出発するきっかけになり、小グループですが地元の男声  
アカペラグループに入団(その後脱退)、また昨年12月には、初めて宇都宮第  
九合唱団演奏会のステージに立つことができ、これらの経験もドン合唱団入団  
に影響を与えていると思います。

私は、現在わくわく幸せな気持ちで第2の青春に浸っています。団員の皆さ  
んに感謝です。これからも宜しく願います。

2019(R1). 7. 11

投稿者 樋山 隆久 (Br)